

2022 vol.68 9月定例会



つわの議会だより



保存修理工事を終えた覚皇山 永明寺[ようめいじ](後田)

写真提供：永明寺文化財修復委員会

令和4年度津和野町一般会計補正予算(第3号)

〈7月27日召集開催の議会臨時会にて可決〉

歳入歳出それぞれ2億3980万円を追加 総額84億 7572万4千円とする

「主たる歳出」

〈千円以下切り捨て〉

非課税世帯臨時特別交付金給付事業費	650万円
地形図作成業務委託料(中山地区)	220万円
学校ネットワーク環境整備業務委託料	550万円
教育費工事請負費(学校給食センター追加分)	2億2142万円
現年農地農業用施設災害復旧費(頭首工4カ所測量設計業務委託料)	439万円

※頭首工とは農業用水を河川から水路へ流し込む施設。水門等。

令和4年度津和野町一般会計補正予算(第4号)

〈9月9日召集開催の議会定例会にて可決〉

歳入歳出それぞれ6億2001万 6 千円を追加 総額90億9574万円とする

「主たる歳出」

〈千円以下切り捨て〉

人事評価システム導入及び運用支援業務委託料	215万円
個人情報ファイル簿整備業務委託料	357万円
令和3年度余剰金に伴い減債基金積立金	6000万円
津和野庁舎耐震補強・改修工事設計業務委託料	339万円
行政手続きのオンライン化システム導入業務委託料	852万円
財務書類作成支援業務委託料	284万円
なごみの里修繕工事負担金(なごみの里浴場ろ過装置機器修繕)	286万円

◎新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業費

- ・つわの暮らし推進課(原油価格高騰対策タクシー業者支援・地域公共交通対策事業補助金・道の駅物価高騰対策支援補助金) 1927万円
- ・健康福祉課(保育園感染対策エアコン修繕料及び原油価格高騰支援補助金) 912万円
- ・医療対策課(原油価格高騰に伴い医療機関・介護事業所支援補助金) 1706万円
- ・農林課(農業用肥料費等価格高騰対策、原油価格高騰の伴い林業事業者支援補助金) 875万円
- ・商工観光課(業績悪化緩和運転資金、業者独自キャンペーン実施補助金、商業・サービス業者小設備導入補助金、原油高騰対策支援補助金) 2704万円
- 戸籍システム改修業務委託料 855万円
- 障がい者福祉センター増築棟整備費 6600万円
- 放課後児童クラブ新型コロナウイルス感染拡大防止事業補助金 139万円
- 青原保育園手洗い場修繕料 203万円

オミクロン株対応ワクチン接種委託料	1559万円
農地農業用施設小災害復旧事業補助金 (7月豪雨災害)	256万円
自営就農志向者受け入れ促進事業費	250万円
林業被害防止対策用機械器具費 (ドローン1台購入農林課管理)	361万円
津和野町放置森林整備補助金(10年以上放置森林)	231万円
津和野駅指定管理委託料(観光協会)	255万円
町道伊料線側溝整備・直地線道路整備工事費	1200万円

津和野町ドローン購入

農林課管理

赤外線カメラ搭載(熱感知)
鹿対策用・不明者搜索、
熊等の位置確認に活躍
災害状況等の早期把握に
大きく貢献できると期待大

最大伝送距離15km 最大飛行時間55分
最大速度秒速23m



町内3橋長寿命化対策設計業務委託料	427万円
嘉年坂川河川改修事業	301万円
住宅管理費修繕料(土井敷団地窓、複合遊具)	628万円
公園管理工事請負費追加(カントリーパーク施設改修)	200万円
教育諸費工事請負費(日原小屋内運動場 OMソーラー撤去・修繕工事)	1570万円
教育諸費器具購入費(学校給食センター厨房、機械器具費)	1億5535万円
日原小学校・木部小学校一般備品費(図工室用椅子購入)	228万円
津和野中学校排水管修繕料	386万円
教育魅力化推進事業費(津和野高校交流センター運営委託料 名称ひまわり)	352万円
津和野田万川線発掘調査事業費	386万円
日原地区体育施設費修繕料(体育館水銀灯取り換え等)	312万円
現年農地農業用施設災害復旧工事請負費(6件の頭首工及び水路復旧)	7099万円
過年災害復旧費工事請負費(4路線)	869万円
令和4年度津和野町一般会計補正予算(第5号)	可決
歳入歳出それぞれ1億3223万3千円を追加し92億2797万3千円とする。	

・地域と一体となった高付価値事業補助金

- 1) 津和野の窓(宿泊施設)
- 2) 古橋酒造(株)(旧ショットバー改修)
- 3) (株)沙羅の木(観光施設改修)
- 4) 大田一希(観光施設改修)
- 5) 美加登屋(観光施設改修)
- 6) (株)津和野観光ホテル(廃屋撤去)
- 7) (株)リロパケーションズ(宿泊施設改修)
- 8) 一般社団法人まちとぶんか創造センター(宿泊施設改修)
- 9) 一般社団法人まちとぶんか創造センター(観光施設改修)
- 10) (株)ヨコヤマ(宿泊施設観光施設改修)
- 11) ソーシャル・キャピタル・パートナーズ(株)(宿泊施設改修)
- 12) 西中国信用金庫日原出張所(廃屋撤去)
- 13) 俵種苗店(宿泊施設改修)

以上13件に配分

Q なごみの里レストラン営業時間短縮などの解消

A 早期に元に戻すことが望ましい



よねざわ ひろふみ
米澤 宏文 議員

問

第3セクター(株)津和野開発運営のなごみの里は2001(平成13)年4月に開業し21年が経過。

レストラン茜雲の営業は昨年12月から今日まで、午後4時以降の営業を休止し8か月以上が経過する。

営業時間短縮の原因は従業員不足。

町長 早期に元の営業時間に戻すことが望ましい。

問

施設の全体の故障や傷みも多く、リニューアル時期ではないか。

5月、町長発表の外資系ホテル招致のため、リニューアルと報酬アップで従業員確保



なごみの里
物販部門営業21時まで 飲食部門16時消灯

Q バイオマス発電所進行状況

A 変更部分もある

問

令和4年度設定スケジュール通り進行か。
①木質バイオマスガス化プラント12基稼働・売電開始は。
②なごみの里温泉チップボイラー供給。
・ペレットストーブ供給。

保を図り木曜日定休日を定休日なしの営業体系が必要となるのでは。

町長 リニューアルは必要と認識。従業員の待遇改善は経営状況を見ながら判断されると考える。

問

赤字経営の大きなものは水道代。
水道利用料金が一般家庭料金で、温浴棟の運営は大きな負担となっている。

燃料代は灯油が主体で大きな負担、バイオマスガス化発電の乾燥チップの供給を急ぐべき。

多くの町民が利用する温浴施設の水道利用料の赤字対策で大口利用料金など安価な料金設定は。

町長 木質チップ利用は施設のリニューアルも含め検討する。安価な料金設定の予定はない。

③チップボイラー設置及び設置場所の検討。
④ポルター発電機40単体設置場所の検討。
⑤従業員数。

町長 社名は津和野フォレストエナジー合同会社。

- ①8月11日本格稼働。1日480kW発電。1000世帯分。
- ②なごみの里チップ供給は今



発電所内
発電機12基で発電・熱利用

後検討。ペレット製造計画は進んでない。
③現段階で進んでいない。
④町地域再生エネ導入戦略策定協議会で検討している。
⑤従業員は3人。

Q JR津和野駅新バス停位置表示等

A 駅舎のバス停案内看板を協議

問

①位置表示チラシを町内全戸配布を。
②石見交通も相互利用か。
③駅舎改札出入り口にバス停留所位置の路面表示等必要。
町長 ①ケーブルのテロップ放送、定時告知放送を実施。

②町営バス・防長バスは利用、9月12日から石見交通バス利用開始。
③商工観光課が案内看板検討中。



津和野駅東のバス停改札出入り口から見えない

Q 斎場前にバス停の新設

A 地域公共交通会議で議題とする

問

石見交通バス停留所の新設が必要。住みや津和野町の対策の一つと

して取り組むべきではないか。
町長 地域公共交通会議の議題とする。

Q 森村下中島桜並木をライトアップ

A 国、県の補助事業を活用

問

下中島通りの桜並木ライトアップで観光津和野のイメージアップ。現在ライトアップされている代官丁の桜並木と大橋、山口線鉄橋を挟み連結しておりライトアップするべき。

延長で町民も観光客も明るい町の散策と、見晴らし広場からの景観が城山のライトアップと重なり、更に夜景が映えイメージアップに繋がる。
町長 国、県の補助事業を活用し誘客対策を実施する。

国花の桜並木ライトアップ



おおえ れい
大江 梨 議員

Q 学校給食での地場野菜 買取価格の改定は

A 関係部署と検討したい

問

給食センターの新設に合わせ、給食の内容、また学校給食に限らず津和野町の食と農の在り方について再考するチャンスではないか。

現在のアレルギー対応食数と新設後の対応は。

教育長 現在の対応食数は合計16食。

メニューにより対応が困難な日はお弁当対応となる。基本方針は「全ての児童生徒に学校給食を」である。

生徒の安全確保が第一であり、センター新設後はアレルギー対応室でアレルギー物質が混ざらないような区分けを行うことでより安全性を高めていく。

問

地場野菜の価格決定方法と改定の余地は。

教育長 買取価格は生産者と協議の上決定。

地場野菜が確保できない場合は、町内業者から約3割、4割増の価格で納入。

単価の改定の協議はできていないが、新規就農者の納入など将来性も考えて、関係部署と検討したい。

問

ジャガイモ、ニンジン、タマネギの確保体制は。

教育長 地場産使用率はジャガイモ52・8%、タマネギ40・6%、ニンジン16・7%。

使用頻度が高く年間使用量も大体の把握ができている野菜であり、地場産率を上げたい。しかし、使用する当日納品を原則としている事など確保に向けて問題点の洗い出しが必要である。

問

センター新設後の地場野菜の納品体制は。

教育長 日原地域は生産者の高齢化で運搬が困難。

新鮮さが重要であるので、新センターにも常時保管庫は設置しない。

生産者からの納入は継続したい。

どのような方法がとれるか関係者で検討したい。

問

先進地域では学校給食だけでなく、保育園・病院・福祉施設・高校寮・地元飲食店が、地元野菜を取り入れやすくなるように施設と農家をつなぐ働きをする、コーディネート者を配置している事例もあるが、検討できないか。

どのよう方法がとれるか関係者で検討したい。

教育長

地産地消コーディネーター派遣事業などを活用し、設置を含め検討していきたい。

問

6月議会と同僚

議員から質問のあった「みどりの食料システム戦略」においても給食は重要になると考える。6月議会後、「みどりの食料システム戦略」の検討は。

町長 まずは有機農業の認知を高めるため、協議会を

Q 町営住宅のクリーニングは

A 清掃業者の活用を検討したい

問

町が管理する住宅の入居者・入居経験者から住宅の管理方法、特に入居前の清掃について改善を要望する声を多数聞いている。現在の体制は。

町長 清掃業者によるクリーニングは行っていない。

入居前の点検で清掃が必要な場合は、建設課職員が清掃をする。清掃に関する基準や決まりはない。通常は入居さ

問

業者によるクリーニングは検討できないか。

町長 職員が行うより業者クリーニングの方が当然綺麗になる。

敷金をいただいているので、入居・退去の際、十分な説明の上、クリーニングの可否について検討したい。



ある日の給食 ヤンニョムチキン、もやしの中華あえ五目野菜スープ

Q 前年度に受け取った設計書を翌年度に変更することはあってもいいのか

A イレギュラーで前例のないことである。



みちのぶ としあき
道信 俊昭 議員

問

今回の給食センター建設事業は、2021（令和3）年度の予算を未契約繰り越しのまま全額を繰越し、さらに22（令和4）年度の予算で入札。

契約前にもかかわらず、設計変更を行い、それに伴う工事費を別途追加し、1件の工事として執行しようとしている。

この工事は一体、令和何年度の起点なのか。予算上は、繰越明許費と22（令和4）年度予算（現年）で構成されている。仕様の一部変更と単価改定によって全体工事費が増額されたものであり、基本的な規模や規格は変わっていない。今回のケースでは明確に分類整理することができるのか。また、こういうこと（繰越予算と現年予算を合算して執行する）をすること自体に何の問題もないのか。

教育長

津和野町学校給食センター建設工事は、20（令和2）年度の繰り越し事業として実施設計を行い、21（令和3）年度の繰り越し事業として建設工事を実施するもの。今回の案件については、一つの事業として実施するため、

工事種別や区分等について繰越予算と現年予算とを明確に分類することは困難である。

また、繰越明許費とは、会計年度独立の原則に対する例外として、地方自治法第213条に定められたものであり、当該年度の歳入を、年度を超えて翌年度に繰り越しして使用することのできる経費である。

この繰越明許費については、あくまでも前年度予算の一部であるため、質問のように単価改定により繰越額が不足する場合、翌年度において補正することも、翌年度の予算等の間で流用することもできない。

予算的には繰り越した前年度予算と翌年度予算の2カ年度に渡る事業として執行されることになる。

自治法に規定する会計年度独立の原則に反するものではない。

問

仕様変更する以前年度の設計書（21（令和3）年度に完成した）の妥当性は、どのように考えているのか。

一般論として、正規の完成品として設計書を受領し、相当する委託金額を支払ったことと、この完成品を発注前に

仕様変更するということの整合性を説明していただきたい。

教育長

21（令和3）年度の完了した実施設計業務については、基本設計に基づいて行うよう依頼している。その依頼内容に基づいて作成された成果品により検査を行い、受領したものである。

その後、資材高騰の情報が入るなどしたため、入札に支障がないか建築士に相談した段階で、設計額の検証に合わせて衛生面や作業効率の向上の観点から、仕様変更した方がよいのではないかとという提案をもらった。その結果仕様変更が必要と判断したものである。

問

町長は「町長の部屋」という自身のブログの中で「これはイレギュラーであり前例のないもの」と述べているが、具体的にどの部分か。

町長

前年度の3月に受け取った設計書を、翌年度の4月に変更するということがイレギュラーであり、前例のないものと考ええる。ただ、今後このようなことのないようにしたい。





寺戸 昌子 議員

Q 町民への物価高騰対策を

A 各種制度の説明を行っている

問

消費者と中小企業にとって全般的な負担減となる消費税減税の実施や零細業者の負担を増やすインボイス制度（※）導入の中止などが必要と考えないか。

町長 制度の廃止を訴えることが真に町民のためとなる得策であるか議論の余地がある。

インボイス制度の導入に伴う相談業務の充実など、混乱が生じないよう取り組む。

町税徴収業務では、真に資金繰りが困難で滞納となった方などの生活実態等の把握のため、きめ細かな納税相談に一層努めてまいりたい。

※インボイスとは、商取引における適用税率や消費税額を明記した「適格請求書」のこと

問

生活困窮者の相談状況と対策は。

町長 今年度の新規相談は町福祉事務所へ4件、社会福祉協議会へ3件あった。

生活困窮者自立支援事業への繋ぎや、生活保護制度や年金、各種支援制度の説明等を行っている。

問

農林水産省で検討が行われている肥料原料価格の高騰対策の内容は。

町長 9月13日に肥料価格高騰対策事業に係る説明会がある。その内容を踏まえ、JAや関係機関と連携し取り組みを進めていく。



Q 「ゼロゼロ融資」の返済困難事例は

A 返済の可能性は高い

問

新型ウィルス禍で売り上げが減った企業に実質無利子、無担保で融資する国の制度「ゼロゼロ融資」の返済が本格化している。

コロナ収束が見えない中、返済が困難になる事例が全国

では相次いでいるが、町内の現状と対策は。

町長 2020（令和2）年度と21（令和3）年度の貸付は、合計176件、25億4720万円となっている。

現在、町内で事業所倒産や

急激な経営悪化の動きはない。

一方、次年度から返済の始まる融資については、総額が

Q 「ゼロカーボンシティ宣言（※）」の啓発活動が必要

A 9月末日までのポテンシャル調査後に行う

問 今年度の施政方針において「ゼロカーボンシティ宣言」をされた。

町民に対する「ゼロカーボンシティ宣言」の啓発活動が必要ではないか。

町長 現在、津和野町地域再エネ導入戦略の策定をしている。

この計画では、当町の再エネの導入にむけたポテンシャル調査と今後の方向性について9月末日までに検討する。

このポテンシャルをまとめたのち町民への啓発活動を行う。

問

津和野フォレストエナジー合同会社の運営する木質バイオマスガス化発電所の稼働状況と町民への周知状況は。

町長 原木チップヤード施設は22（令和4）年1月末に完成し（銆）石州造林が指定管理を行い活動している。

高津川流域の森林整備により搬出された原木からチップ

10億2000万円で、経営に影響が生じる可能性がある。

町では、引き続きコロナ経済対策を行う。

製造を行っている。

発電所は8月初めからガス化エンジンの試運転を行っている。8月11日から本格稼働している。

9月7日にお披露目会を開催した。

これから町民の方々への周知に努める。

町民見学会も考えている。

※「ゼロカーボンシティ宣言」とは、2050年に自治体内の二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることの表明。



Q オミクロン株対応ワクチン等、接種予定は

A 前回の接種から5ヶ月経過の方に接種券を順次送付する



おかだ かつや
岡田 克也 議員

問

現在の町の新型コロナウイルスワクチン接種状況と今後のオミクロン株対応ワクチン等の接種予定は。

町長 当町のワクチン接種状況は5歳以上の2回目接種率は87・7%、12歳以上の3回

目接種率は81%、65歳以上の4回目接種率は67%となっている。オミクロン株対応ワクチンは10月には配布される予定なので、前回の接種から5ヶ月空いた方から順次接種券を送付する予定である。

Q 町内に無料PCR検査場を整備すべき

A 検査体制に課題があり、現時点では困難な状況

問 現在、町内では無症状の人がPCR検査を受ける場所がない。観光地でもあるので、検査できる体制を整備すべきでは。

町長 調剤薬局の薬剤師の人員やスペースに課題があり、検査体制が困難な状況にあるが、引き続き検討したい。

Q コロナ感染者への食料等の配達者へ支援を

A コロナ交付金を活用し支援を検討

問 感染された方々から「あるスーパーから食料品を届けていただいていた」旨の声を聞く。外出できない中で、感染者宅に配達を行う地域密着型スーパーマーケット等の商店へガソリン代等の支援を検討すべきでは。また、非接触で玄関先に商品を置いて帰れば良いので、買い物支援センターの活用も検討すべきではないか。

町長 コロナ交付金を使って配達を行う地元商店の支援等を検討したい。買い物支援センタースタッフの感染リスクを回避するため、正職員の医療対策課職員で対応を継続する。

達を行う地元商店の支援等を



Q 頑張っている店を支え、売上を増やす政策を行うべきでは

A 消費拡大や観光振興、物価高の生活支援等に取り組む

問 つわの持ちかエール飯や忘年会・新年会応援キャンペーンは好評であった。

酒屋や和菓子屋、食料品店、農業生産者等にも恩恵がある。

感染防止対策を徹底して支援を行うべきでは。

町長 「コロナ雇用維持支援事業費補助金」や「事業者独

Q 記録的な円安状況下での外国人観光客誘致に取り組むべき

A 乙女峠の殉教者の列福で観光施策に取り組む

問 国は外国からの入国者数の上限撤廃も含めて制限緩和を検討している。

記録的な円安状況で、外国人観光客の増加が見込める。津和野町も外国人観光客誘致を行い、疲弊した町の観光振興を目指すべきでは。

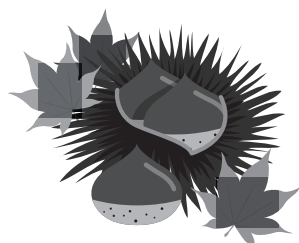
町長 宿泊客受け入れのために、全国に600万人以上の会員を持つ福利厚生企業が町内に進出された。

外資系ホテルの誘致も進めている。有利な補助制度を活用して施設改修ができる観光

消費拡大や観光振興、物価高の影響に伴う生活支援への対策に重点を置く。

乙女峠殉教者の列福による観光客誘致や寺院の庭園を見ながら精進料理を食したりする企画等も進めている。トイレ等、観光インフラ整備を進めたい。

乙女峠殉教者の列福による観光客誘致や寺院の庭園を見ながら精進料理を食したりする企画等も進めている。トイレ等、観光インフラ整備を進めたい。





み たらい つよし
御手洗 剛 議員

Q 「津和野町国土強靱化地域計画」で 取り組む事項は

A 町道改良や橋梁等長寿命化対策など

問 昨年8月の豪雨災害復旧工事個所の現状は。

町長 補助対象分に関しては、公共土木施設、林道、農地・農業用施設合わせて32件。

2件については入札不調等により未発注となっており、あらためて発注することになっている。

災害復旧工事の完成時期は現在13件が竣工しており、その他の箇所についてもまもなく完成する予定。

ただし、町道北斗台線、幾久頭首工は、工事規模が大きいく本年度末の竣工を見込んでいる。

問 その他、随時対応している。津和野川・高津川支流における河床掘削の今後の対応は。

町長 土砂堆積による流水障害、河道内に堆積した土砂に繁茂した樹木により、河道断面積が減少し、また、樹木が洪水の流れに影響を与えて堤防が危険な状態になる可能性があることから、河床掘削は治水上必要な対策のひとつであると認識している。

町で実施する河床掘削につ

いては、島根県から1/2が補助される河川浄化対策事業費を財源に実施しており、今年度は商人川を実施する予定。

問 7月、鹿足土木協会による知事要望が実施されたと聞くが、重点要望の項目と次年度予算組み入れへの感触は。

町長 島根県への要望については、吉賀町、津和野町で構成する「鹿足土木協会」により実施した。

県道整備、河川改修、砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業等の継続事業について、「引き続き事業の推進に努めていく」との回答であった。

また、新規事業としては、河川維持修繕事業を本年度実施予定。

次に本要望における次年度予算への感触については、「県道の田二穂地内トンネル工事においては、23（令和5）年から6年にかけて事業化される予定」とのこと。

問 吹野地区の河川を中心とした要整備箇所把握と今後の対応は。

町長 13（平成25）年7月豪雨災害により発生した被災

箇所のうち、仮復旧の状態であった嘉年坂川の河川護岸復旧については、本年度工事を実施することとしている。

一級河川については、島根県に対して要望することとなるが、治水安全度が確保されている場合、護岸の嵩上げ等の整備は困難との回答であった。

問 津和野川支流等堆積土砂撤去の計画的実施と予算確保については。

町長 一級河川は島根県で対応を検討していただき、普通河川は、町で土砂の堆積状況等を確認のうえ、実施を検討したい。

なお、残土処理場の選定について地域の方のご協力をいただきたい。



大雨時の吹野川



田中 海太郎 議員

Q 町職員に求める能力と期待は

A 状況と使命を認識し、主体的に考え行動すること

問 正規職員の理想像は。

町長 具体的には、

・住民目線で仕事に取り組み、住民ニーズが分かる職員。

・行政のプロとしての自覚と知識を持つ職員。

・懸案事項について早急に対応し解決を図る行動力のある職員。

・住民との交流を積極的にする職員。

問 近年、行政の早期退職者が多い。当町でも10年間に42人の方が早期退職されている。何か対策を講じているか。

町長 退職理由は様々であるが、業務への意欲の低下が原因と思われるケースも認められる。

合併以降、職員の業務負担が過重となり、そのため、職員の精神的なフォローを行うべく、安全衛生委員会やカウンセラーの設置を試みている。

問 上司や同僚等の内部での相談が出来ない

町長 上部や同僚等の内部での相談が出来ない

Q 会計年度任用職員の内訳は

A 全体で217人、その内訳はフルタイム42人、パートタイム175人

地方公務員法の改正により、2020（令和2）年度から会計年度任用職員制度が導入された。

場合、外部の相談窓口はあるのか。

町長 外部としては、カウンセラーのほか、相談員（OB）や産業医などが対応している。

問 現在病欠の職員3人の復帰後の対応やケアは。

町長 復帰支援プログラムを活用して、本人には負担がからないように慣れてもらう。

問 当町におけるハラスメントの対策と予防策

町長 定期的に安全衛生委員会で予防策の意見交換会を行っている。



津和野町役場本庁舎

会計年度任用職員に求められるものは。

町長 仕事の正確な処理、正職員の業務の補佐、そして守秘義務や法令順守に徹して、業務にあたって欲しい。

問 最近、他の市町村で会計年度任用職員が様々な問題を抱えていると

町長 最近、他の市町村で会計年度任用職員が様々な問題を抱えていると

Q 職員人事の意向希望調査を行う考えは

A 現時点においてはデメリットの方が大きい

問 職員がやりがいをもつて職務にあたれるように人事の意向希望調査を行う考えはないか。

町長 当町の役場組織の状況では、現時点においてはデメリットの方が大きい。

今後、DX（※）推進等で業務の効率化、組織の柔軟性が認められれば、メリットをもたらすと思われる。

聞く。当町での対応は。

町長 当町においては、担当部署の管理職がマネジメントを行っている。

問題が起きた時は、迅速に対応するようにしている。

問題が大きい場合は副町長、教育長、町長も交えて対応を協議している。

町長 それは日々の生活の中で育まれるものである。まずは、なるべく職員が町内に居住する事から進めていきたい。また町内に居住する職員には地域に出ていくことの大切さを研修等で伝えていきたい。



津和野町役場津和野庁舎



よこやま もと し
横山 元志 議員

Q 津和野町原木・チップヤードと木質バイオマスガス化発電所の運営について

A 指定管理者の事業体と協定書を締結している

町長 原木の年間必要量6500tに対し益田市の2つの事業体から2000t、高津川森林組合から1000t、指定管理者から3500tとともに、町内の自伐林家や自伐型林家から、町が支援している「山の宝でもう一杯」プロジェクトにより調達する計画である。

問 航空レーザー計測と森林資源解析調査の進捗状況は。

町長 2017（平成29）年度事業で完了し、活用している。

問 12基あるエンジンのうち1基動かないと聞いたが本当か。

町長 1基に不具合があり部品交換待ちであるが、近日中に取り換え予定である。

発電所は津和野フォレストエナジー合同会社の経営であるので対策案については発電所側で検討して頂く。

問 森林環境譲与税の使途は。

町長 森林整備、間伐などの財源にしている。

問 文京区の森林環境贈与税が津和野町との交流で活用されていると聞

いたが。
町長 文京区から職員が今月視察に来た。

来年度、文京区の小学生が来町して、交流や木を使った学習等を計画されている。

問 山林に作業道を作る補助はあるが山林まで行くアクセス道がない。

町長 作業道を作るのに1mあたり1000円の補助があるが、アクセス道については現在のところ補助はしていない。

問 間伐材を搬出した場合、自伐型林家には1tあたり現金5000円と地域通貨券3000円だが、林業事業体には現金5000円のみと聞く。

この目的は自伐型林家を育てたいのか、それとも搬出量を増やしたいのか。

また、これの財源は何か。
町長 財源は森林吸収源対策交付金。

事業体には補助金が入るが、自伐型林家にはそれらの補助金はないので、地域通貨券を付与している。目的は両方。

問 木質バイオマスガス化発電以外のエネルギー施策は。

町長 再生可能エネルギー戦略を策定している。

メインは木質バイオマスガス化発電であるが、太陽光発電や小規模水力発電など小規模のものに補助できるように考えているが計画段階。

問 城山や9号線沿いの森林整備と発電所の燃料と重ねて考えるつもりはあるか。

町長 様々な効果が期待できるが、まずは関係各課で検討したい。

問 関係各課とは具体的に何課か。また、いつどこで検討するのか。

町長 農林課・商工観光課・教育委員会である。

農林課と商工観光課は9号線沿いの眺望確保と森林整備を、森林環境贈与税を財源にできないかすでに協議している。



運用前の視察にて チェーンコンベアーの様子



城山については教育委員会と農林課である。必要に応じて協議したい。

問 必要に応じてというが、必要だ、すぐにでも協議されたい。
町長 承知した。

令和4年9月定例会

(令和4年9月15日)

条例改正

◎津和野町交流センターひまわりの設置及び管理に関する条例の制定

津和野町に一定期間滞在し、学習や研修を行う者に居室を提供したり、学習交流活動・社会教育活動の企画や実施を行うための施設に関する条例。名称は高校生が決定。



現在建設中の津和野町交流センターひまわり

◎津和野町職員の育児休業等に関する条例の一部改正

非常勤職員の育児休業に関する条例を一部改正

指定管理

●指定管理の指定

施設名称 津和野駅
指定管理者 津和野駅

指定期間

令和4年10月1日、

令和6年3月31日



旧津和野駅舎



リニューアルオープン新津和野駅

●指定管理者の指定変更

高津川清流館
枕瀬山森林公園キャンプ場
枕瀬山森林公園休養休憩施設
道の駅シルクウェイにちほり道の駅津和野温泉なごみの里
津和野町にちほり自然商店
津和野町グラウンドゴルフ場
津和野町農産物処理加工施設

契約の締結

(株)津和野開発社長交替
変更前 橋本 正嗣
変更後 豊田 文雄

◎令和4年度安野光雅美術館プラネタリウム機器の取得

プラネタリウム機器が長年経過し、老朽化したため。

(株)三カミソルタプラネタリウム
契約金額 3245万円

納入期限

令和5年3月10日

◎令和3年度津和野町学校給食センター建設工事請負契約の締結

(株)堀建設
完成

令和5年3月31日

請負金額

8億1290万円

町内小中学校の給食の調理・配送、災害時の炊き出し

津和野町特別功労表彰者
(名誉町民)

令和4年9月9日提出

中島 巖氏 (89歳)

推薦
津和野地域自治会連合会
実績

長年にわたり津和野町政を牽引し、津和野・日原の町合併を円滑に進めた。

請願の処理報告請求

また県の公安委員長を務めたほか、津和野共存病院を町営化し、地域医療の存続に尽力した。

・町道畔田線延長工事に関する請願書

平成21年3月30日

・木曽野向線町道の舗装工事について

平成23年3月31日

・側溝整備(後田地区)に関する請願書

平成23年12月14日

・町道高田線改良新設に関する請願書

平成24年9月24日

・地元産の木材の使用に関する請願

平成25年12月19日

・町道丸山狐尾線改良工事に関する請願

平成26年6月26日

・町道善正寺平線の延長に関する請願

平成29年3月29日



提出者	議案 ○＝賛成 ●＝反対 棄＝棄権 欠＝欠席	道	大	岡	米	横	沖	御	三	田	寺	川	結
		信	江	田	澤	山	田	手洗	浦	中	戸	田	果
令和4年第6回（7月）津和野町議会臨時会													
町長	令和3年度津和野町つわぶき交流センター建設工事請負変更契約の締結	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	町道中座団地線の路線認定	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	令和4年度津和野町一般会計補正予算（第3号）	欠	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	可決
令和4年第7回（9月）津和野町議会定例会													
町長	津和野町特別功労者表彰（名誉町民） 中島 巖氏	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	令和4年度安野光雅美術館プラネタリウム機器の取得	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	令和3年度津和野町学校給食センター建設工事請負契約の締結	●	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	津和野町交流センターの設置及び管理に関する条例の制定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 職員の育児休業等に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	公の施設の指定管理者の指定（津和野駅）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（高津川清流館）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（枕瀬山森林公園キャンプ場）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（枕瀬山森林公園休養休憩施設）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（道の駅シルクウェイにちはら）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（道の駅津和野温泉なごみの里）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（津和野町にちはら自然商店（総合案内所））	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（津和野町グラウンドゴルフ場）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// の変更（津和野町農産物処理加工施設）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	令和4年度津和野町一般会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 介護保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 下水道事業特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 診療所特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	// 水道事業会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決
	令和3年度津和野町一般会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	●	○	認定
	// 国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	// 介護保険特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	// 後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	●	○	認定
	// 下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	// 農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	// 奨学基金特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	// 診療所特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	棄	○	○	○	認定
	// 介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	// 水道事業会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	// 病院事業会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	認定
	令和4年度津和野町一般会計補正予算（第5号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可決

所管事務調査報告

●総務経済常任委員会

総務経済常任委員会は今回、津和野町日本遺産センター（以下日本遺産センター）の組織体制と運営について調査した。

日本遺産センターの業務内容

- ①日本遺産センターの維持管理に関する業務
- ②日本遺産及び津和野町の歴史文化の魅力発信に関する業務
- ③日本遺産及び津和野町の歴史文化に関する調査・研究の業務

調査意見・・・

○日本遺産活用推進協議会が令和3年に設立され、若者が多く参加している。

若者の意見が十分にくみ取られ、さらに民間事業者に波及するためにも地域プロデューサーを中心として活用推進していくべきである。

○日本遺産センターの業務委託先が変わったが運営主体が商工観光課か委託先かを明確にすべきである。

○百景図の現場の管理が地域住民の力に頼るところが大きい。

現場の状態を行政が把握し保全活用できるようにすることが望ましい。

●文教民生常任委員会

『小中学生の現状について』

調査意見（抜粋）

1. 学校の統廃合については、現在のところ計画はないとしている。

出来得ることなら統廃合はしない方が良いが、地域が議論しないといけない事柄でもある。

行政は地域が考えなければいけないことを啓発されたい。

2. 令和3年度末における町内小中学校の6校の内5校で児童・生徒の不登校、不登校傾向の実態が見られ、憂慮すべきことである。

学校現場をはじめ、関係機関の支援は行われているものの解消に至っていない状況にある。

支援スタッフ増強を検討されたい。

3. 働き方改革の一環として、2025（令和7）年までに実現するとされている公立中学校の部活動の地域移行について、学校現場では関心が高まっている。

関係者で協議を始められたい。

4. 児童生徒を取り巻く環境や学校が抱える問題が複雑化・困難化する中、また地方創生の観点においても、コミュニティスクール制度の充実により、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めていかれたい。

5. 教育魅力化コーディネーターの配置は学校現場からの評価も高く、教育課程の充実に大きく寄与していると考えられる。

引き続きの配置、また更なる人員・体制の充実を図られたい。

●議会活性化特別委員会

調査中間報告

議会活性化特別委員会とは

議会運営、議員活動の活性化と充実を図り、町民参加による協働の町づくりに寄与するため議長を除く議員全員で構成された特別委員会。

調査の概要

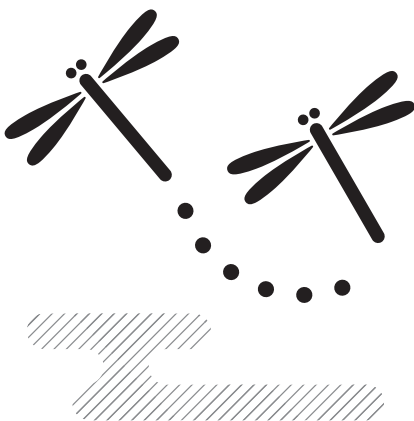
①特別委員会の調査期限である23（令和5）年12月定例会までの大まかな日程と「津和野町議会基本条例（仮）」を制定する

と仮定した場合は、24（令和6）年4月の条例制定に向けて議論を進めることについて確認した。

②既に議会基本条例を制定し、全国町村議会議長特別表彰を受彰されている鳥取県若桜町議会、岡山県美咲町を10月に訪問し、視察研修を行うことを確認した。

③津和野町議会基本条例（仮）の制定に向けた協議並びに同条例の在り方を検討する上で基本的事項の認識を委員で共有するため講師を迎え研修会を開催した。

④議会改革について委員全員概ね賛成で、議会において議員同士で意見を言い合える自由討議の場が必要との意見があった。

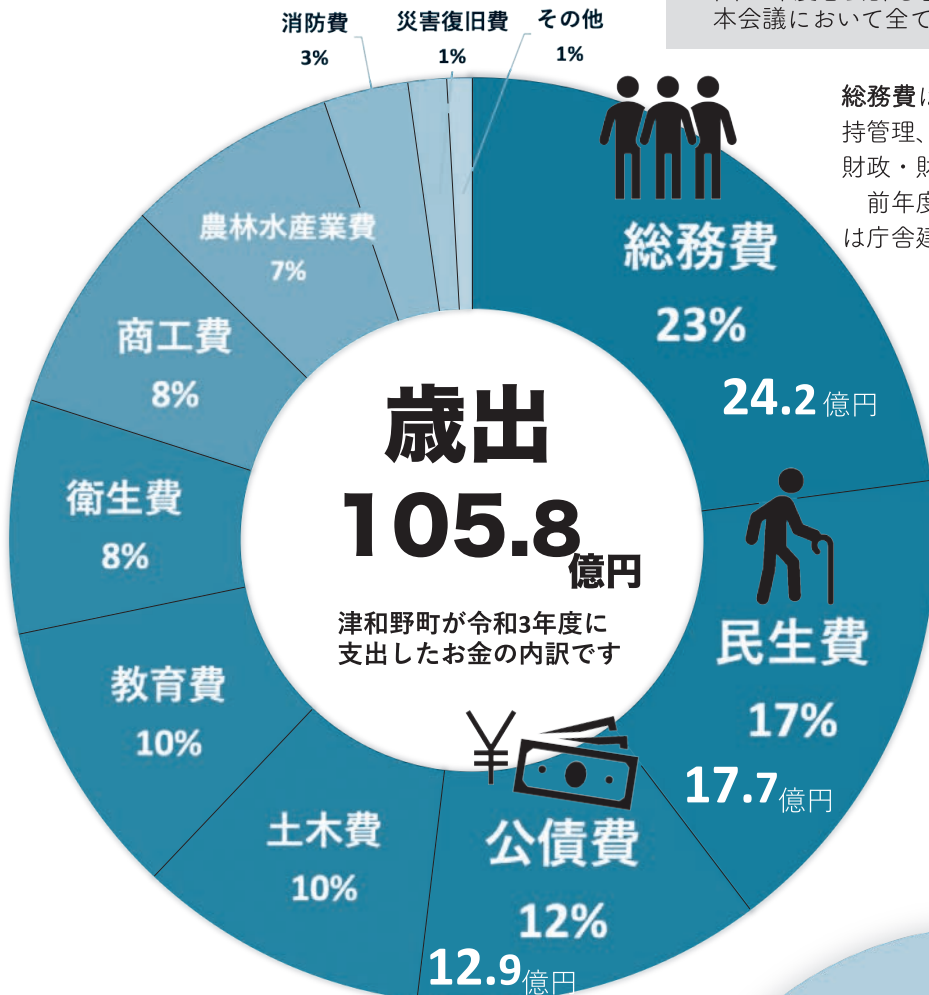


令和3年度

決算
審査

令和3年（2021）年度の津和野町のお金の使い道を審査しました

9月定例会において決算審査特別委員会を設置し、令和3年度各会計を審査しました。
本会議において全ての会計決算を認定しました。



総務費は通常必要とされる経費で庁舎等の維持管理、全般的な管理事務、企画調整事務、財政・財務管理に要する経費など。

前年度と比べて9.8億円の減。減の主なものは庁舎建設事業費、城山整備事業等。

民生費は社会福祉・高齢者福祉・児童福祉等に関する費用。前年度と比べて3900万円増。

主なものは日原保育園整備事業、子育て世帯臨時特別給付金。

公債費は借り入れた町債の返済に関する経費。繰上げて返済した。前年度と比較し1900万円増。

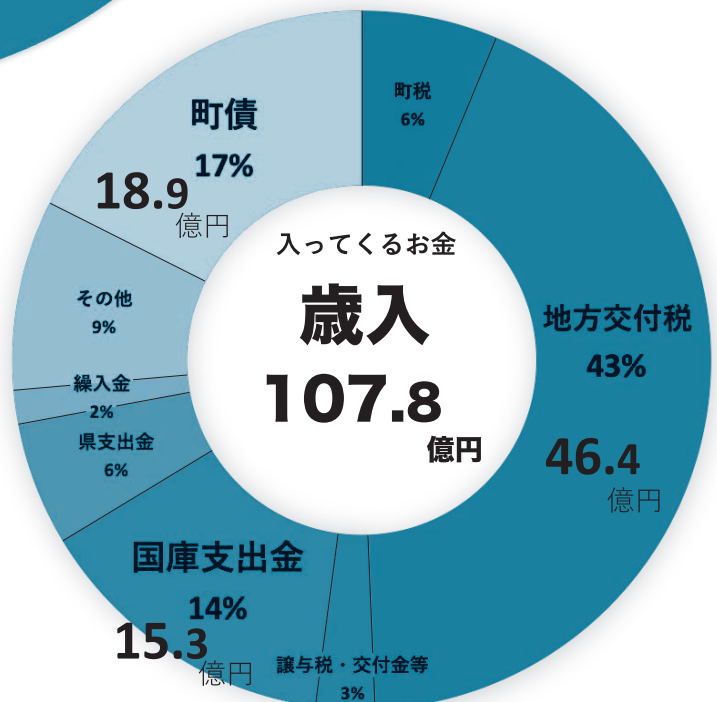
実質公債費比率

9.6%(全国町村平均7.7%)
昨年度対比マイナス0.1ポイント

実質公債費比率とは、借金返済のためのお金が、通常見込まれる収入に占める割合のことです。（少ないほうが良い）

審査意見

- ・実質収支額は1億1745万6121円の黒字決算である。
- ・町民税の収納率は99.6%となっており、昨年に引き続き収納率では県下1位であり、収納努力を高く評価する。
- ・実質公債費比率は継続して実施してきた繰り上げ償還の効果が毎年下がってきている。
実質公債費比率の上昇をできるだけ抑えるため、今後も可能な範囲で繰り上げ償還を実施されたい。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による要因もあるとはいえ、繰越事業が非常に多い。年度内に事業が完結しなければ、事業の償還に対する交付税の交付が遅れ、財源不足が生じる。
また余分な利子を払うことにもなるため、繰越事業は極力控えるべきである。



「つわの議会だより」 読書モニター

町民の皆さまに『つわの議会だより』のご感想をいただき、「読者モニター」を企画しました。

今回の読書モニターは、表紙写真に掲載した永明寺の文化財修復委員会委員長である板垣敬司さんです。

県指定有形文化財である永明寺（後田・表紙写真）は、保存修理事業が完了し、9月25日、竣工式が行われました。



竣工式で工事の概要を報告する板垣敬司さん

まず、永明寺について教えてください。

永明寺は、1420（応永27）年600年前の室町時代に津和野城主の吉見頼弘公によって創建されました。

「津和野藩主亀井家墓所」は国指定史跡です。

建物は島根県指定有形文化財に指定されています。

保存修理工事の竣工にあたり、思いをお聞かせください。

思い返せば、長い道のりでした。

雨漏りが激しくなって10年近く、ご本尊様まで濡れるような事態となつて、ビニールで覆う有様でした。

行政頼みではどうにもならず、自前で何とかしようと、檀家有志が相集い、大工さんの援助もいただきながら、本堂のトタン張工事を強行したこともありました。

あの急な茅葺屋根の上に、トタンを貼ったことを、今、思い出せば怖くなります。

竣工式を無事終えた後、庫裏の一室で安堵の盃を交わしました。

大変な修理だったのでは。修理は19（令和元）年から始まり、費用は約1億1500万円かかりました。

檀信徒の皆さまはもちろん、島根県をはじめ、津和野

町、公益財団法人などから多額のご援助をいただきました。本当に感謝しています。



本堂で行われた竣工式

最後に、『つわの議会だより』についてご感想をお聞かせください。

議員は引退しましたが、一町民として、いつも熱心に拝見させてもらってます。

今は新人議員さんがどういう質問をしているかが楽しみです。

面白い紙面づくりを期待しています。

（聞き手 川田 剛）

編集後記

9月定例会では、令和3年度の決算審査が行われました。一般会計、特別会計、公営企業会計すべてが認定されました。

コロナ禍に入り2度目の決算です。疲弊した津和野町の経済を盛り返すためにこれからも行政の支援が必要です。

また、町内では第7波で多くの方が新規感染者となり不安を感じられたと思います。少しでも早い収束を願います。

一方、木質バイオマスガス化発電所と町が行う事業の原木・チップヤード施設が稼働を始めました。「ゼロカーボンシティ宣言」に沿って環境にやさしいまちづくりが進んでいます。

豊かな自然を生かし地球の環境問題に積極的に取り組む津和野町作りを進めていかなくてはと感じます。

寺戸 昌子

広報広聴常任委員会

◎米澤 宏文 ○寺戸 昌子

大江 梨 横山 元志

田中海太郎 川田 剛